

第2回 垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 会議録

1. 日 時 : 平成 27年 6月 19日 (金) 15:10 ~ 16:10
2. 場 所 : 垂水市役所3階 第一会議室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - ①総合戦略に対する意見交換
 - ・施策形成への意見交換
 - ヒント、アイデア出し等
 - ②その他
4. 出 席 者 :

・尾脇 雅弥 市長	・岩元 明 副市長	
・佐野 雅昭 会長	・川畑 博海 副会長	・篠原 重人 (代理)
・北迫 透 委員	・北川 善郎 委員	・宮迫 隆憲 委員
・岩橋 由紀 委員	・永田 兼一 委員	・福村 功次 委員
・元吉 裕樹 (代理)	・田中 加奈子 委員	・森 真由美 委員
・宮下 直弥 委員		
5. 欠 席 者 :

・田村 眞一 委員

6. 事 務 局 :

・角野 課長	・堀留 係長	・脇 主査
--------	--------	-------
7.

・有馬 主任主事

事務局 … それでは、垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第6条第2項によりまして、過半数の委員の出席をいただきましたので、ただいまより、平成27年度第2回垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。

ここで、まず、市長よりご挨拶をいただきます。

市長 … 本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
先程、G会長による貴重な講演をいただきました。まずは、御礼を申し上げます。

今回は第1回ということで、顔合わせを目的としながら、地方創生のガイダンス等を行ったところがございます。本日の2回目は地方創生における本市の目指すべき将来の方向性や将来のあるべき姿について、委

員の皆様から自由なご意見をいただきまして、施策の形成へ繋げることができればと思っております。

先程のG会長の講演の中にも本市が地方創生を実現するためのヒントとなるものがいくつかあったと思います。

改めて、今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、国のまち・ひと・しごと創生法に基づくものでございますが、垂水市版の地方創生を実現するため、地域の特性や課題を踏まえた、独自性があり実効性があるものの策定を目指して考えているところでございますので、委員の皆様これまでの様々な経験、あるいは、総合的な視野に基づきまして、積極的な議論をしていただきますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、このことを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうか本日はよろしく申し上げます。

事務局

… それでは、会次第3の協議に入りたいと思います。

議事進行を本審議会の会長でありますG会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

G会長

… それでは、協議に入りたいと思います。

協議①総合戦略に対する意見交換とあります。これについて、意見交換・議論していただきたいと思いますが、まずは、垂水市の考え方・方向性につきまして、事務局のほうから説明をお願いします。

事務局

… それでは、事務局のほうから説明をさせていただきますが、説明に入る前に資料の確認をさせていただきます。

会次第、パワーポイント資料、垂水市人口ビジョン策定のための基礎資料の3つを配布いたしております。こちらの基礎資料につきましては、次回以降の審議会において、2060年までの長期ビジョンを策定していくのですが、その際に活用しますので、あともって、お目通しいただければと思います。

本日は、パワーポイントの資料を中心に説明させていただきます。

それでは、1ページ目を開いていただきまして、「本市の拠点整備への取り組み」について説明させていただきます。

これまで、垂水市におきましては、拠点整備ということで、3つの拠点構想というのがあります。

1つ目が北の拠点と言われる「道の駅たるみず」です。こちらは平成17年に開館しまして、1年目に来館者78万人を突破し、年間売上4億円の実績があります。現在は指定管理者により運営を行っておりますけれども、平成25年度までの平均来館者数が80万人となっており、本市の観光振興と地元特産品による経済の発展に貢献しております。

2つ目が「森の駅垂水」です。こちらは中央の拠点といたしまして、平成22年4月に猿ヶ城に「森の駅たるみず」としてオープンしました。こちらは、オールシーズン対応型の宿泊施設と活性化施設を完備しており、

体験型の観光を楽しむことができるようになっております。延べ人数ではございますが、約 5,000 人の方に利用していただいております。

このように、3 拠点ということで、もう 1 つあるのですが、こちらは市長の公約にもありますが、南の拠点整備があと 1 つ残っている状況でございます。今後の取り組みといたしまして、フェリーより南部を候補地といたしまして、拠点整備への取り組みの構想を立てていくところです。このことにより、年間 80 万人の交流人口増加を図り、垂水市全体で年間 200 万人の交流人口を達成したいという構想を考えております。

それでは、拠点によってどのような効果が考えられるかということになりますが、まず、雇用の創出が見込めるのではないかと考えております。雇用の創出が今回の地方創生が目指す「しごと作り」に合致しているのではないかと考えております。次の効果としまして、先程も言いましたが、交流人口の拡大。こちらにつきましても、今回の地方創生で、新しい人の流れを地方に作るという考えがありますので、こちらについても、人を呼び込むという考えに合致していると考えております。最後に、市民所得の向上と書いてありますが、こちらでも地方創生の中で経済の成長力の維持ということ掲げていることであり、この点においても、拠点整備を図ることで、市民所得の向上も図られるのではないかと考えております。

その他にどういったものが考えられるかということになりますが、この拠点整備を考えていくことで、若い世代が集える場というものを考えた時に、出会いの場の創出に繋がるのではないかと考えているところでございます。また、周りの民間企業との関係の仕組みづくりを検討することで、拠点を中心とした周辺、エリアによる発展・活性化が見込めるのではないかと考えております。それと、先程もありましたが、北の拠点と中央の拠点と連携を図ることで、垂水市全体への経済効果があり、市全体の活性化が図られるのではないかと考えているところでございます。

それでは、次に、拠点に持たせる機能にどういったものがあるのかということになりますが、あくまでも（案）なのですが、1 つ目が佐野先生の講演の中でもありましたが、「食」というのがありますので、「食の拠点」というのが考えられるのではないかと思います。拠点に地元の豊かな食材の提供の場であったり、新たな食文化の形成の場に繋がるような位置付けになるのではないかと考えております。

また、「流通の拠点」の機能を持たせてみてはどうかと考えております。これにより、6 次化商品だったり、加工品販売の促進の場、地元産品の情報発信の場などの機能を持たせてみてはどうかと考えております。

最後になりますが、「レジャー拠点の拠点」という位置付けで、温泉を利用した憩いの場であったり、景観を活用した癒しの場など、そういった

位置付けができないものかと考えております。

以上のような案をお話してきましたが、ポイントは、垂水市が考えている拠点を中心にどういった機能を持たせるべきか。あとは、拠点について自由に意見やアイデアやアドバイスを出していただければと思っております。拠点を考える中で、産業振興の視点であったり、消費者の視点であったり、子育ての立場で考えられる点であったり、自由に意見を出していただければと思っております。

本日はホワイトボードを使って、皆様から出た意見をキーワードというかたちで貼り付けていって、まとめができればと考えておりますので、自由な意見発表をお願いします。

以上となります。

G会長

… ありがとうございます。

ただいま、事務局のほうから説明がありましたけども、最後のところの11ページにあります、拠点に持たせるべき機能について、南の拠点を想定した場合に、それぞれの立場、それぞれの関係していることを絡めながら、何か自由に意見を出していただければと思います。

本当に自由でいいと思いますので、こういうものが欲しい、こういうものがあれば、などがあれば、是非、意見を出していただきたいのですが、それでは、A委員代理から順番に全員一言ずついただきたいと思えます。

A委員代理

… 漁協が餌やり体験というものをやっていて、その都度その都度話しているんですけども。新幹線が開通する以前は、鹿児島県に来る修学旅行生は4万人いたものが、開通後に10万人になっているそうです。ただ、餌やり体験と民泊を垂水市がやっていますが、5千人しか来ていないという現状がありますから、まずは、1万人を目指しましょうとか2万人を目指しましょうかというところからやっていって、そして、おっしゃるとおり、クオリティというところを上げていかないといけないと思うんですけど、そこに10万人が眠っているので、鹿児島県の観光課も15万人20万人を目指しましょうと言っているんですけど、漁協としても3年計画でこんなことをしようかなとかを考えている最中ですので、差別化を図った中学生・高校生に対することができればと考えているところです。

G会長

… そういう、垂水市漁協さんが取り組んでおられるブルーツーリズムのメニューなり、実際の話の中で、こういう施設ができた時に、こういうことをしてもらえたら自分たちの修学旅行生受け入れがより良い取り組みができるんじゃないかとかありますか。スペースを利用して。

A委員代理

… 先生がおっしゃるとおり、サービスというところで、餌やりしに来てもらってで終わってるんですよ。松浦みたいにこちらから伝えたいものを伝えているわけではないので、情報提供もしないままになっているので、変えていかないといけないなと思っております。僕も東京で百貨店の

サービス業にいた人間としては、サービス、クオリティアップを図るところを念頭に、どこを目指すかはわからないんですけども、餌やり体験というものが鹿児島県では垂水市だけだったんですが、残念ながら、エコリンクのパンフレットに載っているのは、あちらの東町漁協の餌やり体験が載っているのが現状ですから、やっぱり、差別化を図ったプレゼンテーション、顧客満足、修学旅行生などがもう1回来たくなるようなものを構築していかないと思って、考えているところは多々あるので、そこをどうやって具現化していこうかと考えているところです。

G会長 … この施設ができて、プラスアルファとしてできることができてくると、それぞれの魅力が変わってくるのかなと思います。

それでは、B委員、よろしくお願いします。

B委員 … 南の拠点作りということなんですけど、実は、私どもの農協が温泉センターを持っていたんですけども、5年前に建物の老朽化がありまして閉めました。実は、昨日でしたけども、建物はあるものですから、温泉道具を持った方が夫婦で来られまして、うろちょろしていらして、「温泉は閉めたんですか」と言われました。うちの農協温泉の泉質が良かったものですから、来られる方いらっしゃるんですよ。失礼ですけど、フェリーを降りて右に曲がれば財宝温泉と江洋館があります。左に曲がれば海潟温泉があって、牛根の道の駅まであるんですけど、渓谷と温泉のまちとあるんですけど、もっと広々とゆっくりできる温泉があれば、私どもの温泉が再開できれば一番いいんでしょうけども、なかなかそれも厳しいものですから、南の拠点として、もうちょっと大きい垂水の温泉を売り出すような、そういったところもできて、牛根方面と比べて交通量が2.6倍も多いということで、鹿屋方面に行った方が帰りに寄ってくれるような施設的なもので、当初はお金は掛かることなんですけども、目玉的なものを作って、それは温泉だと思うんですよ。温泉という資源を有効に使ってあげればいいのかと思います。

G会長 … 地理的要素を有効活用するためにも、温泉というのは鹿児島にとって、やはり、大事なものだと思います。

ついでに、言うと、勝手な思い付きですけど、どうせだったら遅くまで開いている温泉がいいですね。大隅の遊びに来て、帰りに温泉に入ってから帰るという時に、20時ぐらいで終わると、行きたかったのに終わっていることが多いので、色んなところでそういう経験をしていますので、ちょっと遅いと、最後は垂水で温泉に入って帰ろうかなということになるのかなと思います。

それでは、次に、C委員、よろしくお願いします。

C委員 … 子どもがいるものですから、子どもたちをどこかに連れて行こうかとした時に、毎回毎回、鹿児島市内の繁華街に行って映画を見に行ったりしたら、お金も掛かってしまうので、公園で遊ばせたりするんですけど、

垂水市内だと、どこに行くのとなるんですよ。海岸公園とかになると、夏場は草が生えていたりして、夏休みも遊べないような状態の時もありますし、そうすると、鹿屋のユニクロ下の公園だとか、桜島の恐竜公園だとか、霧島の城山公園で遊ばせて、帰りに温泉に入って帰ってきたりするんですよ。安上がりと言えば安上がりなんです。それで、子どもたちは満足してくれるものですから、そういった施設が垂水市はないですよ。バラ園に行って帰ってきて、そういった温泉施設が垂水にあればいいのかなと思います。そうすると、垂水を最終目的地にしてくれる人も増えてくるのかなと思います。今では通るだけのところになっていますから、目的地にしてもらえそうな施設があったらいいのかなと思います。

G会長 … ちょっとびっくりしたんですけども、通過する数が多いということなんでしょうかね。それが素通りするということなんでしょうから、なんとか、ここで一時ストップしてもらえそうな、車から降りて時間を使わせれば、お金も使ってもらえそうな、そういう仕掛けが必要なのかなと思います。

C委員 … 高速道路ができてから、フェリーを使って来る方も少ないんですよ。今年になって、若干、交流人口が減っていると思うんですよ。私が夜中に店にいと、大体1時ぐらいにフェリーが着くんですけど、その後、店の前を通るんですよ。今は、車が通ったっていうぐらいの台数なんです。去年と状況は変わっていないわけですから。海潟でもそういう現象が起きていますし、高速を使っている方は多いみたいで、子どもの試合などが鹿屋である時にどうやって行ってるのって、鹿児島市内の親御さん達に聞くと、高速を使って行っていると言うんですよ。お互いですね。今までは桜島フェリーとかだったんですよ。無料区間だから、そういう現象が起きているのかもしれないですけど。有料になるまで時間が掛かるので、そこも踏まえて目的地にもらえたらいいと思います。

G会長 … ありがとうございます。次に、D委員、いかがでしょうか。

D委員 … 私は農業をしている観点から言わせてもらおうと、今は、みなさん、良い商品を作ろうということが目的で農業している方が主だと思うんですよ。それでも降灰の影響やらで、どうしても商品にならない農作物ができてしまうと、それをどうするかというと、捨てたり、そのままトラクターでまきこんでしまったりするんですが、拠点を作るに当たっては、そういう農産物を少しでも有効活用できたりだとか、安く提供できたりだとか、灰はついていますが食べるのには問題ありませんというような、少しでもお金になっていくようなことができないかなということは思っているところです。あと、自分も、鹿児島市内から奥さんを貰って、垂水ってどう、とたまに聞くことがあるんですけど、「遊ぶところがない。」

って言われます。やっぱり、そこを言われます。C委員が言われたように、レジャー施設っていうのも考えていきたいなと思っています。

G会長 …… ありがとうございます。次に、E委員、お願いします。

E委員 …… 今、C委員とD委員がおっしゃったことを踏まえたかたちになると思うんですが、今、3年目になるんですが、玉ねぎを作っている時に、どうしても身内の不幸が重なったりして、大きくなりすぎてしまったりとかした年があったんですけど、私の実家が道路沿いなもので、一度、そこに軽トラックを1台置いて、大小ミックスしたかたちで1袋100円ぐらいで置いてみたんですけど、そしたら、ワンコインという手軽さもあって、道路沿いということもあったので、毎日、補充しても補充しても売れた時もありました。平日の仕事に行く朝の時間帯はあまり減らないですけど、帰宅時間になる17時ぐらいは出しても出しても売れていく状態で、私としても在庫を抱えずに済んだということがありました。それも休日になると、家にまで、「ないですか。」というように来る方もいらっしやいましたし、「箱で送りたいんですけど、ないですか。」という方もいらっしやいました。D委員もおっしゃいましたけど、良いモノを作ろうとすると、どうしても規格外品が、規模が大きくなればなるほど、でてきてしまうものなんだと思います。良いモノを作っていこうとしている方もたくさんいらっしやるので、G会長の講演でもお聞きしましたが、「ブランド力」、この「ブランド力」をより向上させていけば、規格外品なども底上げになるんじゃないかなと思います。それを踏まえて、作っていく中で、A級品、B級品というものができるのであれば、例えば、A品をどう売り込んでいくか、B品をどのように利用していくかということも大事なことになるのかなと思います。

あと、C委員がさっきおっしゃっていた、高速道路を使う人が多くなったということに関してなんですが、私の家は新城なんですが、まさに南地区のところですよ。昔から住んでいて思うことが、以前はトラックがすごく多く通っていたんですよ。でも、高速ができたことによって、そちらに、鹿児島からのファミリーとか長距離を運転するトラックとかが流れていって、安全面では良いことかもしれませんが、トラック関係の人はコンビニを利用されていることが多いということもありました。そのような光景が最近は見られなくなったのかなと思います。高速を使うことが運転手さんにとっても安全性にとっても利便性にとっても楽になるということはよくわかるので、それであれば、そのトラックの運転手さんが来てくれれば嬉しいんですが、そちらに流れているファミリーの方々が安全に動ける場所としてのルート、ただの通り道ではなくて、そのルートの中に魅力を作っていけば、フェリーから新城麓まで20分あれば行ける距離なので、その間に、その20分のどこに目を引くかというが

大事になるんじゃないかなと思います。

G会長 … 海沿いのこちらのルートの全体の魅力が高まらないと取り戻せないということですね。その拠点には大きな魅力の柱が必要だということだと思います。

次に、F委員、お願いします。

F委員 … 県の大隅地域振興局という立場で意見を申し上げるのは非常に難しい部分があるんですが、私どもが管轄しております大隅半島のそれぞれの各市町に素晴らしい戦略を作っていただきたいというのがひとつの思いでありまして、この3つの拠点構想についてなんです、道の駅たるみず、森の駅たるみず、そして、新たに南の拠点作りをされるということなんです、私はまだ森の駅たるみずに行ったことがないものですから、どういった施設なのかということが分からない部分もありまして、それと、道の駅たるみずは年間80万人の来訪者がいらっしゃるということであれば、改めて、80万人というのは多いなと感じたところでございました。それと、南の拠点をどうするのかということのをこれからどういう機能を持たせるのか、道の駅たるみずというのは足湯があったりするのはいくテレビで拝見させていただいているのですが、森の駅たるみずもテレビで拝見させていただいたんですが、南の拠点をどういう位置付けにするのか。私も出身は鹿児島市内でありまして、フェリーを使っているんですが、走るだけとかあちこちのコンビニに行くことはあるなと思っております。どうのように、産業振興の立場、子育ての立場でということが考えられるのかなと考えた時に具体的な意見は、後で皆さんの意見を伺いながら、発言させていただける場があれば、発言させていただきたいと思います。

G会長 … では、H委員、お願いします。

H委員 … 今回の地方創生に関しまして、若い人たちの意見をミーティング等を使いまして、まとめてきました。

まず、垂水の位置を考えた時に交流人口200万人を考えますと、鹿児島県内の垂水市ではなくて、南九州における垂水市、もしくは、エリアを大きくしますと、九州における垂水市という立地条件を考えますと、決して悪いところではないということが考えられます。鹿児島だけで考えますと、薩摩半島の人達はほとんど来ませんで、ということであれば、それなりの仕掛けをしないといけないということになります。逆に考えた時に、我々垂水市民外に行く時にどこに行くのか、旅行とか観光、大体行くところは決まっていますよね。今一番有名なところは、世界遺産や文化遺産があるところ。もう一つは、子どもたちのテーマパーク、ディズニーランド、ディズニーシー。それともう一つ、女性の方々が大好

きなアウトレットモール、大体この 3 つだと思います。それから、大きく夢を語るのであれば、この 3 つの内のどれかが垂水市にできないかなということ。子どもさんのことを考えると、大きな夢から入ったほうが地方創生のアイデアは広がるのではないかなと思います。それから、先程ありました垂水漁協さん、ここでは、海という資源がありますので、牛根漁協もありますね。これに関連するのであれば、海洋パークだとかもあります。牛根から遊覧船を出して、海潟に停まって、そこに海洋パークを造ったりとか、あとは、猿ヶ城溪谷にロープウェイを繋げたりとか、もしくは、ケーブルカーとか、そういうのができないのかということ。ということが、もし可能であれば、人は寄ってくると思います。

一番身近に感じたのが、垂水漁協さんが先日開催した「井グランプリ」に 8 千人以上の人に来ております。これを、365 日分の 1 日にするのではなくて、南の拠点で毎週開催すればいいと思います。そこでフードコートを作って、グランプリをするとかですね。もしくは、南の拠点に關しましては、高級食材を高級な価格で売る。安ければいいということではありません。そこにブランド力とかを付けていけばいいと思います。アイデアがまだありますけども、他の方に譲りたいと思います。

I 委員代理 … G 会長のお話の中で、わざわざ垂水に来るか。そして、ここにしかないものが何なのか。という話がありましたが、南の拠点ができて、北の拠点の道の駅の 78 万人という実績は大きいとは思いますが、同じようなものができたとしたら、それなりのお客様は来るとは思いますけども、リピーターには繋がらないという私の思いがあります。ですので、レストランがあつて物産があつてという、一般的なものではなくて、やはり、何か違ったものが必要だと思います。色んな施設の連携だとか、その周りに遊べる何かがあつて、連携がないと、単品だけでは人は集まらないと思いますし、温泉だけ入ってもらっても、お金で言えば大きいお金ではないでしょうから、できれば、そこに来てもらえる遊べる場所、そして、泊まれる場所があれば盛り上がると思っております。では、それが具体的にどうすればよいかと問われると、具体的にはちょっとまだないんですが、単品ではなくて連携で、寄ってもらって泊ってもらってという考えが必要ではないかなと思います。

J 委員 … 基本的に自由に言ってもいいんですよ。

G 会長 … 何でもどうぞ。

J 委員 … プールが欲しいです。先程ありました温泉ができるのであれば、温泉を利用したプールを作っていただいて、降灰を気にせず入れるプールがあれば嬉しいなと思います。自分の出身が指宿なんですけど、先程、そうめん流しの話がでて、嬉しかったんですけど、自分の子どもの頃とか

は、プールに行くとなるとホテルが多くあるので、白水館のプールに行ったり、岩崎のプールに行ったりだとか、そのようにしていました。垂水に来たらプールがないですよ。学校にはありますけど、学校のプールも灰がいっぱい降るので管理がすごく大変なんですけど、ちょっと潔癖な子どもにしてみれば入りたくないという子も中にはいるんです。プール指導をしている時とかですね。ですので、子どもが綺麗な水で泳げる場所があったら嬉しいです。海でも泳げる場所はあるんですけど、クラゲがいたり、ちょっと危ないところもあるので、プールがあったら嬉しいです。

G会長 …… それでは、次に、K委員お願いします。

K委員 …… 私は出身が垂水市でも一番北側の境というところなんですけど、高校も大学も市外でして、垂水市民でありながら垂水にあまりゆかりがないというか、垂水のことを知らなかったんですけど、垂水市で働くことになってから、すごく垂水の魅力を感じることができて、でも、やっぱり、どうしても牛根境方面は皆さんそうだと思うんですけど、買い物に行くにしてもどうしても霧島市のほうが便利が良かったり、そのようなこともあって、生活圏がそっちになっているということもあって、でも、垂水市にも魅力があるものがたくさんあって、そこを生かしてないのかなと思います。

ちょっと、余談になりますけども、この間テレビでいんげんポタージュがでていたんですけど、いんげんポタージュのほうじゃなくて、その隣にあった、いんげんを買いたいという問い合わせが多かったというのを聞いた時に、加工して販売することも大事だと思うんですけど、健康志向とかを考えると新鮮な野菜であったり、お魚であったり、お肉であったり、そういった地のそのものが提供できるような、地元に住んでいると、そういった、いんげんとかは頻繁に貰ったりして、価値を忘れていたんですけど、テレビを見て立派ないんげんだったということで、問い合わせがあったと聞いた時に、垂水に住んでいたら分からない魅力とか、そういったものが本当にあるんだなと感じたので、そういう部分を生かしていけたらいいんじゃないかなと思います。

あと、J委員もおっしゃったんですけど、プールについてなんですけど、高齢者の方々も健康づくりのためだとか、大型レジャー施設的なプールがあったらいいと思います。

L委員 …… 皆さんがほとんど意見をおっしゃって、納得だなという意見ばかりだったんですけど、温泉は欠かせないのかなと思います。私もたまに、家族湯が霧島市にあるんですけど、そちらに行ったり、綺麗なところで個別に仕切っていると、若い人も来ていたりして、県外ナンバーもあって、そういう施設があると良いのかなと思います。大きな温泉だと

か、垂水には温泉もいっぱいありますけど、それはそれとして、他所から来る人たちのために、家族湯とかも整備していくと、それを目的にわざわざ来るのかなと思います。また、家族湯とか温泉だけではなく、物産も含めて、垂水にはいんげんとか芋とか色んな農産物等も非常に良いものがありますので、販売所とかもそうですし、体験型も面白いのかなと思います。ちょっとした、植えるとか採るとかそういったものでいいと思いますし、そうすれば、子どもたちも一緒にできて、垂水に来たりするのかなということもあると思います。皆さんがおっしゃったように、道の駅、森の駅と連携して、それとは一味違ったモノを新しく作るのであれば大事なのかなと思います。コンビニとかもそうですけど、トイレがしっかりしていて、ちょっと寄ってみようかというものもあると思いますし、トイレを綺麗に整備するとかですね。あとは、銀行さんが関係してくると思うんですけど、ATMを設置するとかも、ひとつの案だと思います。

M副会長 …… 皆さんに、考えていたものを言っていたら、最後は中々でてこないところですけど、私も昔から思っていたのは、プールがあればいいなと思っていました。串良の流れるプールに連れていったりですね。近くにあればいいなと思っていました。あと、これはただの案なんですけども、本物志向とかありましたけども、垂水だから、田舎だから、あえて、「めんどくさい」というものを売りにして、体験型の農業をすることか、1シーズン農地を貸しますよとかいうようなものであったりするものも人を呼ぶことになるのかなと思います。「めんどくさい」というのは、森の駅に行くのに馬車に乗って行くとかですね。そういう、垂水には、すごいのあるなというものを売りにしたりとかもいいのかなと思いました。前から私も思っていたのは、ロープウェイを掛けたら、すごい人がくるんじゃないかなと、10年前とかに話がでたような気がします。以上です。

G会長 …… 色々と意見を出していただいたところでございます。事務局のほうに整理していただいているところでございます。
まだ、言いたいという方はいらっしゃいますか。

F委員 …… 垂水市ということだけを考えてもいいと思いますし、広域的な大隅半島全体で考えてもいいのかなと思います。他の市町村と連携したりするのもいいのではないかと考えられると思います。

G会長 …… 大隅全体が高まるような機能を集約して、大隅農業パークとか大隅養殖パークとか、そのような入口にして、そこから、色々ありました体験型のものであったりなども考えられるのかなと思います。

私も付け加えますと、食べるということに関して、郷土食というのも大事なのかなと思います。日本の和食というものは、基本的には京都の精進料理というものスタンダードになっていますけども、世界全体で見

たら、フランス料理というものも郷土食の集まりなんですよね。一部地域のものが評価されているわけで、九州全域から集客するということが、80万人という話がありましたけども、他所に住んでいる人からしてみれば、まったく新しいモノがいいとも限らないし、大隅のモノ、垂水のモノで昔からあるようなものを食べてみたいと思うのではないのかなと思います。

市長のほうからは、今までの意見を聞いて何かございますか。

市長

… 皆さん、色々ご意見、ありがとうございます。

3つの拠点ということで、北の拠点・道の駅たるみずを中心としたものが、明日でちょうど10年目なのですが、800万人の来場者を達成することになっております。毎年安定して80万人を達成しているという現状があるのですが、一方で、高速道路ができて、さらに工夫をしなきゃいけないというのが課題だろうと思っております。中央の拠点として森の駅たるみずがあるんですけども、地元の方には昔から猿ヶ城として親しまれているんですけど、それぞれ子どもの頃に思いがあると思います。手つかずの自然があって、どのようにマネジメントしていくのかというのが課題だったんですけど、何年か前にコテージができて森の駅垂水になっておりますけども、そこを拠点としながら、例えば、キャニオニングとかの体験型で他にないものやっていて、広い意味で中央の拠点は餌やり体験とかをしているんですけども、新たに今年からはインドネシアから13組400名の子どもたちがきて、餌やり体験や民泊体験などをして、評判が良い状況であります。それから、秋のシーズンになると千本イチョウもあり、一か月で6万~7万という人が来ますので、そのへんと繋ぐロープウェイなんかどうかなという話も昔からしていますし、具現化する時に一番問題になるのが財源の話になってきますので、これまで、中央中学校を改修する時に民間も使える温水プールみたいなものも検討したんですけど、スペース等の問題があって、それでは、垂水高校のプールはどうだろうかということも、小学校の隣だし、いいんじゃないかという話もあったんですけど、現在のところかたちにはなっていないんですけど、話を変えると、潜在的にそのようなニーズはあるということだろうと思います。そういった中で前回、大きな話の中で具体的な個別なものが決まっていなかったんですけど、今回、ある程度、南の拠点を中心とした活用方法の話の中で色々なアイデアがでてきましたので、その中で室は何なのかということをしっかりと考えて、どうやって儲かる仕組みといたら経済の話になりますけども、楽しむということでもいいと思いますし、楽しいと思ったら、みんな儲かるようになるかもしれないですし、そのターゲットを誰にするのか。先程、トラックで通る人達が少なくなっているという話もありましたが、その人達は高速を走ってもらうとするならば、それ以外のどのような人達が対象

となりえるのか、平日ならば例えばシルバー層とか、今の観光客の多くを占めているとも言われておりますので、その人達のニーズを捉えることも大切になると思います。あるいは、週末は家族連れ、温泉も単純に大きなものを作るのかどうか。私も霧島に行ったりしますので、お金を出して家族風呂といのは面白いので、そういったものが10個ぐらいでもあると、違ってくるのかなと思います。そのへんを今度煮詰めていって、かたちにしていかなければならないと思います。今出た意見というものは、「こうなったらいいよね。」というところから始まっていますので、それが非常に大切だと思います。下手に戦略とか作戦というよりも、本来、こうだったら楽しいよねというものは、共通理解だと思いますので、一般論で言うと、美味しいものを食べたいとか温泉に入りたいというのは共通理解だと思いますので、そこにどういったアイデア・知恵を絞るのが大事だと思っておりますので、今日は2回目ということで、拠点の話の中でどういったものかという話になっておりましたので、3・4回と回を重ねるごとに精度が上がってくると思いますし、まだまだ、これから期待したいなと思っております。今聞いた時点では、そういったアイデアが出ていますし、かたちにするには産みの苦しみとかもあるとは思いますが、魅力的な画が描けると銀行のお金をいっぱい持っておられる方もいますので、ちょっと出してみようかという話になるかと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

G会長

… ありがとうございます。
事務局の方からは何かありますか。
（「ありません。」）

本日は皆様の方からも意見をいただきまして、市長の方からもまとめるような市としての考え方もありました。

今回は2回目ということで、半ばではございますけども、皆様から出していただいた意見を事務局のほうでまとめていただきまして、施策形成に繋がるように形成していただきまして、次の審議会で協議できるようにしていただきたいと思っております。

事務局の方から何かありませんか。

事務局

… 本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。
本日出ております意見につきましては、取りまとめをしながら、どのようなかたちで委員の方々の意見を取り込めるのか、どういったかたちですのかという目指すべき方向を整理しながら、次回の審議회를7月ということで予定をしております。会場は市役所内になると思います。日程については現時点では未定となっておりますけども、委員の皆様の多くの参加をいただきたいと思っておりますので、それぞれの委員の方々でご都合の悪い日があれば、事前に事務局の方にお知らせ願えれば日程調整したいと思います。よろしく申し上げます。

G会長 … ありがとうございます。
それでは、他にないようですので、今回の審議会は終了したいと思います。
長時間お疲れ様でした。

16 : 10 終 了
